

ふじもりけいこく  
藤森桂谷 歌碑

広津 旧北山稚蚕所前



北山四季の咏

北山四十八溪の四季の咏は殊更に  
 桃ノ木平花咲きて正の田かすむ春霞  
 楡室越えて大久保の見る目なつかし日影山  
 花の坂森長谷窪に永き春日を暮さなむ  
 花の菖蒲の足崎や日野あし遅き高畑  
 中の貝から寺間なる山田にうつる夕月夜  
 峯の在家に宿からむちかひも深き六地藏  
 郷士窪から平畑秋の日影の足沼に  
 萩もそよぎて梅の尾や神出の神にまうでなむ  
 美の理うれしき法道や庄の平に庄山に  
 かけとやの松平出の雪のあしたぞうれしけれ

桂谷は天保6年(1835)、現在の安曇野市豊科に生まれました。青年時代には京都に行つて、漢詩や絵画、短歌などを熱心に学びました。

学ぶことを大切に考えた桂谷は、郷土に帰つてから、成新学校や豊科学校をつくりそこで教えたりしました。政治にも関心を持ち、県議会議員なども務めました。

広津の北山学校へ校長として来たのは、地域の学校建設問題を解決するためでしたが、努力してまとめ、地域の人たちからしたわれました。

学校をやめてから、地域の人たちにより、桂谷が広津の集落名を盛り込んで詠んだ歌の碑が建てられました。

71歳で亡くなるまでに詩や短歌など多くの作品を残しています。

また、地域でのいろいろな活動は、地域の発展に尽くし高く評価されています。